

若手アカデミー 活動報告

狩野 光伸

日本学術会議 若手アカデミー副代表
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

日本学術会議 第171回総会 平成28年4月14日(木) 16:00～16:15

若手アカデミー(第23期)(平成27年2月～)



大西会長ら幹部と記念撮影する若手アカデミーメンバー



代表：
上田泰己



副代表：
狩野光伸



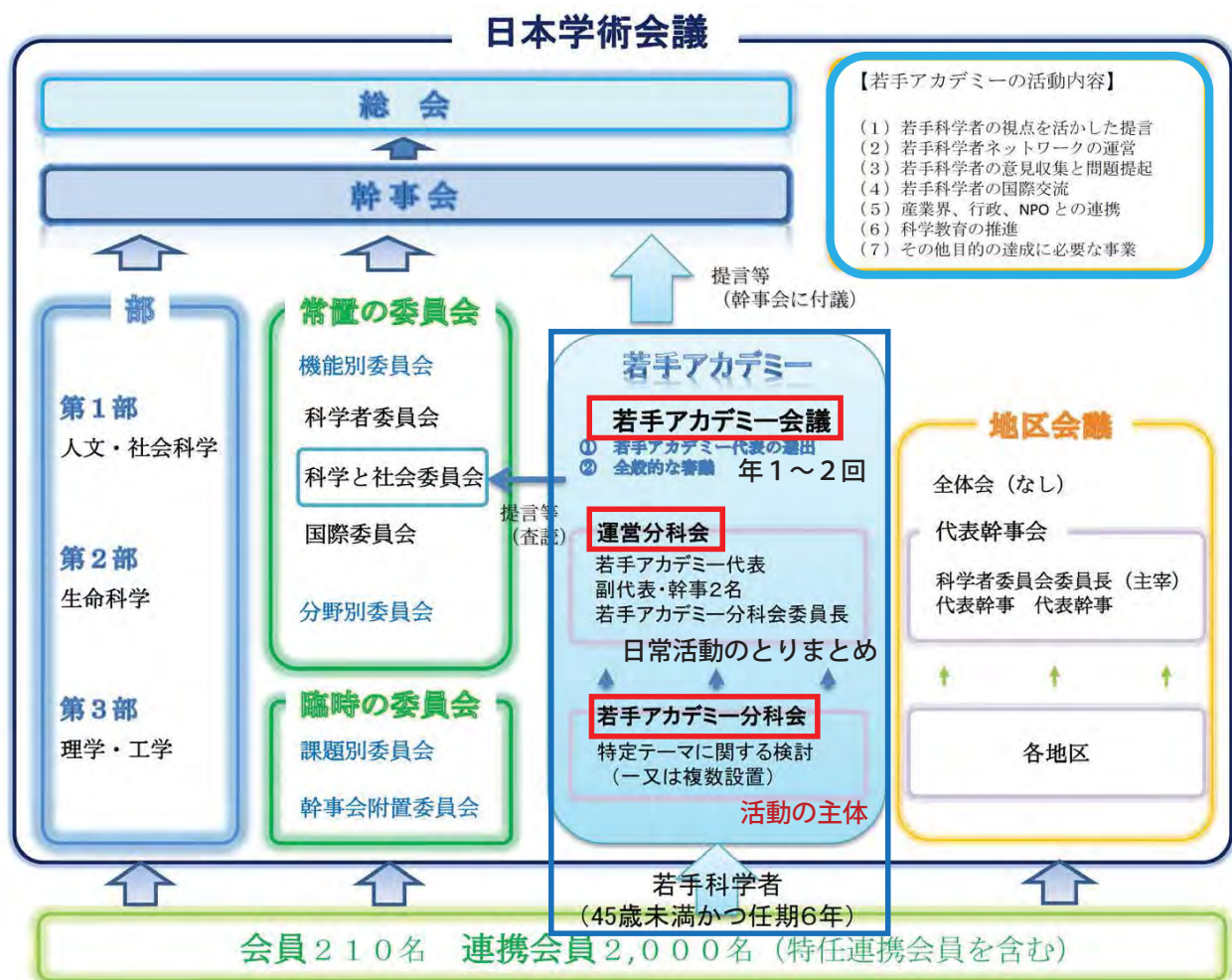
幹事：
隠岐さや香



幹事：
住井英二郎

	氏 名	所 属・職 名
代表	上田 泰己	東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻教授
副代表	狩野 光伸	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
幹事	隠岐さや香	名古屋大学大学院経済学研究科教授
幹事	住井英二郎	東北大学大学院情報科学研究科教授
	荒木 稚子	埼玉大学大学院理工学研究科准教授
	有路 昌彦	近畿大学農学部水産学科准教授
	有田 正規	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授
	生田ちさと	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所宇宙科学研究系准教授、宇宙科学広瀬・普及主幹補佐
	石田 美紀	新潟大学人文学部准教授
	宇南山 卓	一橋大学経済研究所准教授
	大木 研一	九州大学大学院医学研究科教授
	北村 友人	東京大学大学院教育学研究科准教授
	小山 良太	福島大学経済経営学専攻教授
	塩尻かおり	龍谷大学農学部講師
	瀬山 倫子	日本電信電話株式会社NTT先端集積デバイス研究所主幹研究員
	高山弘太郎	愛媛大学農学部准教授
	所 千晴	早稲田大学理工学術院教授
	所 裕子	筑波大学大学院数理物質科学研究科准教授
	名取 良太	関西大学総合情報学部教授
	林 秀弥	名古屋大学大学院法学研究科教授
	原 隆浩	大阪大学大学院情報科学研究科准教授
	平田 聡	京都大学野生動物研究センター教授
	堀永 真弓	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授
	山田 有徳	中央大学理工学部人間総合理工学教授
	吉田 丈人	東京大学大学院総合文化研究科准教授
	井藤 彰	九州大学大学院工学研究科准教授
	岩崎 渉	東京大学大学院理学系研究科准教授
	川畑 秀明	慶應義塾大学文学部准教授
	竹村 仁美	一橋大学大学院法学研究科准教授
	中村 征樹	大阪大学金沢教育推進機構准教授

メンバー：30名(4/1現在)



第三回若手アカデミー会議(平成28年3月17日・18日)

合宿形式(2日間)で開催 ・ アジア若手科学者会合と併催



ワークショップ「学問の消滅と生成」

現在、国内外を問わず、学融合や統合など、学問のダイナミックな再編が、ディシプリン、制度、教育の各方面で大きく進んでいる。確かに私たちの抱える課題は多くの場合、どれも領域を横断するもので、複雑である。これらの変容に対して、学問は、具体的にどのように実践的に応答しながら、どのような未来の人間社会を構想し、そのための布石を打つべきか。

(公開シンポジウム「学問の消滅と生成の系譜学:現場から融合とは何かを考えるために」の開催について: 第226回幹事会資料 より抜粋)



各分科会に分かれての活動



アジア若手科学者会議参加者からの発表(2日目)



全体会合(2日目)

第二回アジア若手科学者会議(平成28年3月16日～18日)

若手アカデミー会議と併催、国際高等研究所・The GYAと共催

アジア地域各国において近年続々と若手アカデミーが設立されている。それらの間で緊密な連絡を取りながら、**アジア地域内また他地域の若手科学者が連携しグローバルな課題に立ち向かっていくことが重要**である。この目的の下、すでに平成25年(2013年)に日本学術会議によって**アジア若手科学者会議の第一回が東京にて開催**された。ここで、アジア地域における若手科学者の現状を調査し、より有意義な活動支援の方策を考えるという企画に取り組むことが参加者の間で決定された。これら各国若手アカデミーの主要メンバーが構成員となっているThe Global Young Academy (The GYA)ではこのような各国における若手アカデミーの設立と運営を支援しており、日本若手アカデミーもその設立と運営方法の策定にあたっては厚い支援を受けてきたが、この企画もThe GYA・タイの支援を受けながら現在ASEANを中心として開始されている。

本会議(ワークショップ)ではこの進捗を共有しながら、日本学術会議が議長をする平成28年(2016年)のGサイエンス学術会議で議論された**将来の科学者育成、あるいは気象の変化、アジア地域における科学の課題などのグローバルな課題について、参加者各々の持つ問題意識をまずは共有し、その後それらを統合して深める形で探った。**

参加国:

韓国、フィリピン、マレーシア、インドネシア、
インド、台湾、イスラエル



会議の様子(花木副会長・国際高等研究所長尾所長・有本副所長らも同席)



若手アカデミー会議出席者と

若手アカデミー分科会

【若手アカデミーの活動内容】

- (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- (2) 若手科学者ネットワークの運営
- (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- (4) 若手科学者の国際交流
- (5) 産業界、行政、NPO との連携
- (6) 科学教育の推進
- (7) その他目的の達成に必要な事業**広報**

若手による学術の未来検討分科会
(福永真弓、瀬山倫子ほか)

若手科学者ネットワーク分科会
(宇南山卓、井藤彰ほか)

イノベーションに向けた社会連携分科会
(吉田丈人、高山弘太郎ほか)

国際分科会
(北村友人、竹村仁美ほか)

若手による学術の未来検討分科会

委員長
福永真弓



副委員長
瀬山倫子



【若手アカデミーの活動内容】

- (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- (2) 若手科学者ネットワークの運営
- (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- (4) 若手科学者の国際交流
- (5) 産業界、行政、NPO との連携
- (6) 科学教育の推進
- (7) その他目的の達成に必要な事業

若手アカデミーの前身である若手アカデミー委員会の下に時限設置(平成24年3月16日～平成26年9月30日)された「学術の未来検討分科会」で抽出された問題意識、及びその下で行われた調査結果と分析を引き継ぎ、以下のような課題に関して、若手科学者の視点からの学術に対する期待とその課題を解決する方策を検討する。

- ①学術への期待と課題(若手から／若手へ)
- ②研究者の理想像、ライフ・ワーク・バランス
- ③学術における人文社会科学
- ④若手から見た他分野との「学術融合」の可能性と課題

→シンポジウム「学問の消滅と生成の系譜学：融合への問いかけ」(仮)の開催を予定(7月10日、13:00～17:00、於：日本学術会議講堂予定)

メンバー(8名：平成28年4月1日現在)

氏 名	所 属 ・ 職 名
生田ちさと	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所学際科学研究系准教授、宇宙科学公報・普及主幹補佐
石田 美紀	新潟大学人文学部准教授
隠岐さや香	名古屋大学大学院経済学研究科教授
○瀬山 倫子	日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 主幹研究員
所 裕子	筑波大学大学院数理物質科学研究科准教授
平田 聡	京都大学野生動物研究センター教授
◎福永 真弓	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授
△中村 征樹	大阪大学全学教育推進機構准教授

※◎は委員長、○は副委員長、△は幹事である。

国際分科会

委員長
北村友人



副委員長
竹村仁美



【若手アカデミーの活動内容】

- (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- (2) 若手科学者ネットワークの運営
- (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- (4) 若手科学者の国際交流
- (5) 産業界、行政、NPO との連携
- (6) 科学教育の推進
- (7) その他目的の達成に必要な事業

地球社会において日本の学術が果たす役割は。また他国と比較してわが国の学術をどのように進めていくべきか。これらを、今後20年以上にわたってわが国の学術を牽引するべき若手科学者の立場から考え、また世界各国に次々設立されている若手科学者を主たる構成員とする学術組織である若手アカデミーとの連携によって実践していく。本分科会では、既に関係の深い国際的若手学術組織であるグローバルヤングアカデミーへの参画を通じ、他国の若手アカデミーとの交流を深め、また我が国との交流連携を深めるための催しを考案開催する。分科会は世界規模の問題を解決するために行動しこの目的のため他国のアカデミーと共同して国際的発信を行う。

→第二回アジア若手科学者会議を開催した。今後、各種国際連携を継続。

発足メンバー(5名：平成28年4月1日現在)

氏 名	所 属 ・ 職 名
荒木 稚子	埼玉大学大学院理工学研究科准教授
◎北村 友人	東京大学大学院教育学研究科准教授
原 隆浩	大阪大学大学院情報科学研究科准教授
△狩野 光伸	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
○竹村 仁美	一橋大学大学院法学研究科准教授

※◎は委員長、○は副委員長、△は幹事である。

若手科学者ネットワーク分科会

委員長
宇南山卓



副委員長
井藤彰



【若手アカデミーの活動内容】

- (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- (2) 若手科学者ネットワークの運営
- (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- (4) 若手科学者の国際交流
- (5) 産業界、行政、NPO との連携
- (6) 科学教育の推進
- (7) その他目的の達成に必要な事業

広く内外の若手科学者との連携を図り、**国内の若手科学者のネットワークを形成・維持**することを通じて、**若手科学者の抱えている意見の収集や若手科学者への問題の提起**を行う。このような観点から、各種学協会との連絡窓口とし、相互の意見交換に関する以下の事項等を審議する。

- ① 若手科学者ネットワークの運営に関する事項
- ② 若手科学者の意見収集と問題提起に関する事項

→メーリングリストの規約策定。若手科学者ネットワーク構築のため、さらに「若手科学者サミット」を企画。(未来検討分科会主催の7月10日実施のシンポジウムと同日程でポスターセッションを予定)

メンバー(10名:平成28年4月1日現在)

氏 名	所 属 ・ 職 名
荒木 稚子	埼玉大学大学院理工学研究科准教授
生田ちさと	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所際科学研究系准教授、宇宙科学広報・普及主幹補佐
◎宇南山 卓	一橋大学経済研究所准教授
△住井英二郎	東北大学大学院情報科学研究科教授
高山弘太郎	愛媛大学農学部准教授
所 千晴	早稲田大学理工学術院准教授
吉田 丈人	東京大学大学院総合文化研究科准教授
○井藤 彰	九州大学大学院工学研究院准教授
△岩崎 渉	東京大学大学院理学系研究科准教授
竹村 仁美	一橋大学大学院法学研究科准教授

※◎は委員長、○は副委員長、△は幹事である。

イノベーションに向けた社会連携分科会

委員長
吉田丈人



副委員長
高山弘太郎



【若手アカデミーの活動内容】

- (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- (2) 若手科学者ネットワークの運営
- (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- (4) 若手科学者の国際交流
- (5) 産業界、行政、NPO との連携
- (6) 科学教育の推進
- (7) その他目的の達成に必要な事業 **広報**

科学技術イノベーションをめぐる大変革時代が到来するなか、学術が目指すべき姿は、社会との連携を深めながら、広い視野に立って検討することが求められる。そこで、多様な学術分野の若手科学者から構成される若手アカデミーの下に分科会を設置し、ウェブサイトや出版を通じた社会への**広報活動**と、地方を含めた我が国全体の**学術・行政・産業・NPO などの関係者との交流活動を通じて、若手科学者による社会連携を推進するとともに、社会連携のあり方や科学技術イノベーションの社会実装など、学術と社会の関係について検討**を行う。

→シンポジウム「産官学による社会連携・イノベーション・地方創生」を企画(7月、愛媛)。
→広報「学術の動向」内に設置いただいた「若手アカデミーの動向」への寄稿依頼を担当。

メンバー(8名:平成28年4月1日現在)

氏 名	所 属 ・ 職 名
有田 正規	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授
塩尻かおり	龍谷大学農学部講師
○高山弘太郎	愛媛大学農学部准教授
所 千晴	早稲田大学理工学術院教授
△名取 良太	関西大学総合情報学部教授
林 秀弥	名古屋大学大学院法学研究科教授
◎吉田 丈人	東京大学大学院総合文化研究科准教授
川畑 秀明	慶應義塾大学文学部准教授

※◎は委員長、○は副委員長、△は幹事である。

その他の活動

名称 若手アカデミー会議					
代表	上田 泰己	副代表	狩野 光伸	幹事	隠岐さや香、住井英二郎
主な活動	2015年6月11日 STSフォーラム(マレーシア クアラルンプール)に竹村委員が参加 2015年10月4-6日 STSフォーラム(京都)に荒木委員 が参加 2015年11月17日 気候変動枠組み条約第21回締約国会議 に向けた共同宣言に署名 2015年11月16-18日 北村委員が「第2回世界若手科学者会議」(ストックホルム)に参加 2016年2月26日 科学技術担当大臣と意見交換 2016年3月16-18日 「第2回アジア若手科学者会議」を主催				
今後の課題等	・各分科会の活動を潤滑に継続し発展させる。				

科学技術担当大臣と意見交換



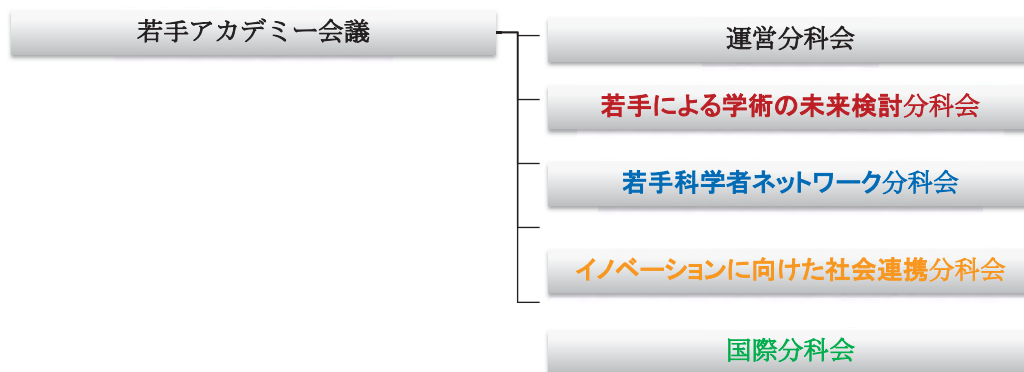
島尻大臣との意見交換会に若手アカデミーの会員が出席

若手アカデミーの会員(上田代表ほか計7名)が、平成28年2月26日、島尻大臣との意見交換会に出席。

科学技術コミュニティから国民への研究成果の発信方策や、女性・若手の研究者・技術者の活躍拡大方策などについて、活発な意見交換が行われた。

(日本学術会議ホームページ:トップ・ニュース)

運営分科会



名称 若手アカデミー 運営分科会					
委員長	上田 泰己	副委員長	狩野 光伸	幹事	隠岐さや香、住井英二郎
主な活動	各分科会活動の連携統合と支持を行うこと				
今後の方針	若手アカデミーが、分野の枠を超えた若手科学者の連携と社会貢献の場として <u>持続的に機能するための土台作り</u> を進める。				

若手アカデミーは、未来の日本の学術、ひいては日本のため、今後も活発な活動を行っていきます。

若手の立場からも、いまある問題に対して智慧を絞り、発言し、活動することは、よりよい日本の未来に必須であると考えております。

よろしくお願い致します。